

「信仰と希望と愛」

問題提起

- ・この言葉は何を言いたいのか

本文説明

1. 倫理的な文脈の中で語られている

- ・倫理的とは一人と人との関係の中ですべきことをする意味
- ・権威の文脈の中ではない
- ・その中での賜物の働きとは
- ・(聖書は信仰を前提にして書かれている一例例えば福音書)
- ・ローマ 12 章、I コリ 12 ~ 14 章、エペソ 4 章
  - ・賜物は常に倫理的な文脈の中に置かれている

2. 「賜物」という言葉と「能力」という言葉の違いはなにか？

- ・聖霊の賜物とは
  - ・信仰、いやし、預言、使徒、教師、管理者、勧めをする者、寄付する者、伝道者、牧師  
知恵の言葉、知識の言、力あるわざ、いやしの賜物、霊を見分ける力、異言、異言を解く力  
奉仕者、
- ・この世の「能力という言葉」と聖書の「賜物」とは
  - ・神なき世と聖書の世界
    - ・与えられるという逆説
  - ・マタイ：ブドウ園の主人と労務者の話—神の平等
    - ・マタイ 20 : 1 ~ 16 「あなたの目にはねたましく思われるのですか」
    - ・謙遜と悔い改めの WORD—神に近づく道

3. 「信仰と希望と愛」と教会の一致とは

- ・教会の一致と賜物の共同体
  - ・教会の一致は何によってもたらされるのか
- ・愛はどういう働きをするか—他の賜物に対して
  - ・愛がなぜ優れているのか
    - ・賜物をコントロールする、オーソライズする働きをもつ意味で
    - ・しかし優劣ではなく、働きとして
    - ・ある時代の教会成長の考え方は霊的成長より人数の増加が重点であった

・まとめ

- ・「信仰と希望と愛」
  - ・クリスチャンの人生の要約
  - ・教会づくり